

平成三十年十二月号

鬼石

佐怒賀正美

ど
ん
ぐ
り
や
我
に
も
欲
し
き
頬
袋

ど
ん
ぐ
り
の
大
暴
れ
す
る
東
尋
坊

叢
虫
や
氷
河
の
虹
を
引
き
寄
せ
て

天
空
を
容
れ
て
甘
や
か
冬
ざ
く
ら

ゆ
が
み
な
き
日
和
に
鬼
石
冬
ざ
く
ら

平成三十年十一月号

白桔梗

佐怒賀正美

悲史にこそ時の寄る辺や白桔梗
宇宙塵すこし拭ひてをみなへし
師の句碑と野分名残の海を聴く
天高し島守のごと生みつぐ詩
ひねりつつ四肢を伸ばしぬ水の秋

平成三十年十月号

口笛

佐怒賀正美

口笛を聴き分けてゐる女郎花
秋暑し有ること無きこと覆る
夢継ぎのやうに紅萩こぼれけり
新涼や赤子は日日を手でつかむ
草の露白しいちいち転ぶ子よ

※「草の露白し」は七十二候

平成三十年九月号

巨象

佐怒賀正美

世界最大の蛾なり百年を展く
あめんぼの息に彩色してみたき
でで虫を散りばめ星空めく行路
巨象飛ぶさまや残暑の噴煙は
骨にして象の巨頭や天の川

平成三十年七・八月号

空梅雨

佐怒賀正美

聖五月眠るには小さな空でいい
きもだめし帰りは虫殖えてをり
幾世経し天国の鍵黴ぬぐふ
娘も稚^やも来る梅雨晴の兆し
赤ん坊^ぼの放屁を腕に梅雨晴間

平成三十年六月号

千年藤

佐怒賀正美

眼球無数いだく地球や青葉潮

獏^{ぼく}も鶴^{ぬえ}も出るに至らず青葉の夜

欲望のごとく氷菓の溶けだしぬ

あめんぼが跳ぶとぶ還暦の奥へ

聖獣の香なり千年藤くぐる

平成三十年五月号

朧夜

佐怒賀正美

うららかな石庭シャツの背に鯨
亀鳴くや石化の兆しほぐさんと
パイル抜き地下編み直す朧かな
朧夜や小さく生まれけふ立ちぬ
銀河鉄道どの車窓にもさくら餅

平成三十年四月号

もがき

蹴

佐怒賀正美

鯤ほどに都を伸ぶる花の雲

死爪を浄めてからの花の闇

霾や舫ひ綱投げあやまたず

櫻井郁也ダンスソロ

舞ひ絞る未生の春の蹴なり

南海の小島に訃報を聴く

赤道は魂帯び兜太を招く虹

平成三十年三月号

鷗どり

佐怒賀正美

もぞもぞと冬眠かさこそと万骨
につぼんが雪のエクレア赤子添ぞへ
港から始まる春よ鷗どり
妻折りし十体二組の飾り雛

文挾夫佐恵さんから賜りし

土雛師の面影の祈りの目

平成三十年一・二月号

賀客

佐怒賀正美

しんがりの新たな賀客赤ん坊

開闢の跡を探しに夢始

初泣の赤子に侍る日と月と

怪士あやかしもしかみ顰しかみも伏して鏡餅

悩殺の赤子に仕へ年明くる

